

<試験問題概要>

問題 以下は、インターネット上のサイト「キャンパス」トイビトに2022年5月10日付で掲載された宇野重規氏へのインタビュー記事の抜粋【A】およびフランスの日刊紙ウエスト・フランス(Ouest-France)のサイトに2024年3月19日付で掲載された歴史学者ジャック・ル・ゴフ氏による視点「戦争の挑発を受ける民主主義」の抜粋の邦訳【B】である。読んで[設問1]および[設問2]に答えなさい。

下記出典の新聞記事の一部を改変しつつ引用し、出題した。

出典：

<https://www.toibito.com/toibito/articles/%E6%88%A6%E4%BA%89%E3%81%A8%E6%B0%91%E4%B8%BB%E4%B8%BB%E7%BE%A9>

<https://www.ouest-france.fr/reflexion/editorial/point-de-vue-la-democratie-au-defi-de-la-guerre-40f1577c-e538-11ee-9435-63dcb38aa522> の抜粋の邦訳

なお出題にあたり、一部改変している。

※問題文は、著作権の関係上非掲載とします。

[設問1]

【A】および【B】の2人の論者が専制国家に比べて民主国家が戦争に対して優位にたつとしている理由を挙げなさい。(300字程度)

[設問2]

[設問1]で解答した理由について、あなたの考えを述べなさい。(700字程度)

(この出題は法律学の知識を問うものではありませんので、法令、判例や学説に言及する必要はありません。また特定の政治的立場を高くまたは低く評価するものでもありません。)

<出題趣旨>

<出題の意図>

民主国家と専制国家という二つの国家体制と戦争の関係を論じる、インターネット上のサイトに掲載された我が国の政治学者のインタビュー【A】とフランスの日刊紙のサイトに掲載された歴史学者の視点【B】を読み、そこから、「専制国家に比べて民主国家が戦争に対して優位にたつ」との結論を導く理由を抽出し、その理由に対して、自身の考えを、明確に説得的に述べる能力をはかること。

<解答例・評価のポイント>

【A】では、国への貢献は、戦争への直接参加に限定されないとはいえ、歴史的には民主的な意思決定への参加資格が戦争への直接的な貢献と結びついてきたことが説明された後、戦争に参加する可能性のある者による民主的な意思決定が戦争に対して抑制的に働くこと、つまり、民主国家の方が、専制国家に比べて、不合理な、あるいは無謀な戦争を選択する可能性が少ないとの結論が述べられている。戦争の遂行についての優位性に直接言及するものではないが、民主国家における合理的な意思決定という優位性が示唆されている。

【B】では、近年民主国家間の戦争の例が見られないとの歴史的事実が述べられた上で、民主国家の軍隊は、確固とした信念、体制への信頼に裏付けられているとともに、敗戦により専制体制に服することになる恐怖から、

2026年度南山大学大学院法務研究科法務専攻(専門職学位課程)入学試験 A日程「小論文」
試験問題概要および出題趣旨

専制国家の軍隊に比べ、軍隊の士気が高く、自発的に効果的な働きをすることが指摘され、現実には戦争となったときの、民主国家の優位性を述べている。

[設問1] では、以上のような内容を踏まえて理由を簡潔に整理していることが評価のポイントである。

[設問2] では、[設問1] で解答した、民主的プロセスによる決定の合理性、民主的な体制への信頼に裏打ちされた軍隊の士気の高さといった理由に対して、肯定的または否定的な自身の考えを明確に説得的に述べていることが評価のポイントである。例えば、自身の考えを補強する歴史的な事実や、自身の考えに対して予想される反論に言及しつつそれへの再反論がなされていれば、より高い評価が与えられる。

<試験問題概要>

問題 以下の文章を読み、〔設問1〕および〔設問2〕に答えなさい。

下記出典の書籍の一部を改変しつつ引用し、出題した。

菅豊「知の『鑑定人』」、望月昭秀ほか編『土偶を読むを読む』（文学通信、2023年）所収405-421頁

※問題文は、著作権の関係上非掲載とします。

〔設問1〕

下線部①に関連して、筆者によれば、「知の健全な品質管理」はどのようにあるべきとされているか、また、『土偶を読む』がどのような点でその「品質管理」を歪めていると筆者が述べているかについて説明しなさい。
(300字程度)

〔設問2〕

筆者は下線部②において、『土偶を読む』の評価における専門家の不在を問題視している。それと関連して、客観的事実や専門知よりも、個人的感情や信条が優先され、専門知・専門家の意見が否定され、それらが社会や世論に影響を与えたとあなたが考える具体例を挙げ、その問題点を指摘しつつ、専門知・専門家の役割についてあなたの意見を述べなさい。(700字程度)

(この出題は法律学の知識を問うものではありませんので、法令、判例や学説に言及する必要がありません。また特定の政治的立場を高くまたは低く評価するものでもありません。)

<出題趣旨>

<出題の意図>

2021年に刊行され、ベストセラーとなり、著名な学芸賞まで受賞した『土偶を読む』（竹倉史人著）へのいわばアンサー本として考古学研究者らが執筆した図書の一部を読ませた上で、受験生の読解力と論理的思考力、さらには具体化力と自身の考えを明確かつ説得的に述べる能力を問うた。

<解答例・評価のポイント>

〔設問1〕では、「知の健全な品質管理を歪めている」ことについて、①筆者の立場を踏まえて、②何がどのような点において品質管理を歪めているかについて、問題文の範囲内で要約できているかどうか、字数やバランスに着目しながら、評価した。

〔設問2〕では、専門知、専門家、客観的事実などが軽視され、個人の感情や信条が優先され、その結果、社会や世論に影響を与えた具体例が挙げさせ、その具体例が専門知等の軽視に関して孕んでいる問題点を析出できているかどうか、また、これらを踏まえて、専門家や専門知の役割について自身の見解を説得的かつ明確に論じられているかどうかを、記述量にも着目しながら評価した。

なお、〔設問2〕の具体例としては、血液型性格診断、アメリカ大統領選挙をめぐるトランプ側のフェイクニュースによる扇動、新型コロナウイルスに対するワクチンをめぐるデマ、地球温暖化否定論、生成AIの説明とハルネーションの問題、生活保護受給者や外国人といった社会的弱者・少数派に対するバックラッシュ現象、東日本大震災後の放射線リスク評価をめぐる風評などが考えられる。

試験問題概要および出題趣旨

<試験問題概要>

問題 以下の文章を読み、[設問1]および[設問2]に答えなさい。

下記出典の書籍の一部を改変しつつ引用し、出題した。

出典: 禹宗杵・沼尻晃伸『〈一人前〉と戦後社会:対等を求めて』(岩波新書, 2024年)5~11頁。

※問題文は、著作権の関係上非掲載とします。

[設問1] 著者が下線部のように考えるのはなぜか、説明しなさい。(300字程度)

[設問2] 著者は、「人並み」という考え方が、「半人前」とされる非正規労働者やパート(女性)に不満を与えていると考えているが、問題文中の例以外にどのようなケースがあり得るか、また、その例での不満を解消するためにはどのような方策があり得るか、あなたの意見を論じなさい。(700字程度)

(この問題は、法律学の知識を問うものではありませんので、法令、判例、学説等に言及する必要はありません。)

<出題趣旨>

<出題の意図>

禹宗杵・沼尻晃伸『〈一人前〉と戦後社会:対等を求めて』(岩波新書, 2024年)の一部を読み、設問について検討する中で、文章読解力や論理的思考力を問うものである。

<解答例・評価のポイント>

[設問1]

本文の該当箇所(政府による「本意/不本意」区分への疑問)を正確に踏まえ、著者がその見方を問題視する理由を、因果関係が分かる形で要約できるかを問う。具体的には、①正規が長時間労働を前提としており「都合のよい時間に働きたい」人が実質的に正規を選びにくい点、②日本ではパート等であるだけで時間当たりの価値が下がり「半人前」扱いが生じる点、③表面上の自己選択をもって不利益の構造を不可視化してしまう点を整理できるかを測る。

[設問2]

本文で示された枠組み(「人並み」=狭く画一的な承認基準が不満を生む)を、本文外の事例に応用して説明できるかを問う。どのような事例について論じるかは自由であるが、単なる感想やエピソードではなく、①どのような場面で「人並み」基準が働き、②誰にどんな不利益・固定化が生じ、③それがなぜ不満になるのか、を具体的かつ論理的に示す力を測る。さらに、その不満を緩和するために、個人の努力ではなく制度・慣行(評価、処遇、採用、働き方、社会保障、学び直し等)の側をどう設計し直すかという、実現可能な方策を提示する構想力も評価対象となる。